



木々に囲まれた英彦山で、木に触れる

英彦山スロープカー木のおもちゃキャラバン

5月17日、18日の2日間、木のおもちゃキャラバンが英彦山スロープカー花駅舎で開かれました。子どもやその保護者は、国産材から作られた積み木や木



↑一生懸命積み上げた積み木を楽しそうに倒す児童たち

製ホッケーなどのおもちゃで遊び、木に親しみ、木を楽しんでいました。自然について考えるきっかけになればと昨年に続き開かれたこの企画は、秋にも開催予定です。

住みやすい国、アルゼンチンを聞く

町立図書館添田町読書会教養講座

5月8日、アルゼンチン在住で一時帰国中の山本房夫さんを講師に迎えアルゼンチンや南米各国の近況を聞く講座「知りたい！アルゼンチン」が町立図書



↑パタゴニアの氷河など、興味を引く話題たくさんの講座

館で開かれました。2回目の開催となった講座で山本さんは、現地の治安や旅行の話をし、参加者からのサッカーや食べ物などさまざまな質問に楽しく答えていました。

カラフルな「砂」を使って作品制作

児童館わくわく☆イベントデー

4月26日、児童館で「サンドアートをつくろう」が開催されました。カラフルな砂を使って絵を描くサンドアートは絵の具などで描く絵とは違った仕上がりになります。最初にテーマを決め、魚や昆虫などの切り絵にパステルで色付け、背景にカラフルな砂を撒き、それぞれ幻想的なサンドアートを作っていました。



↑砂浜などの装飾に砂を使い、キラキラ輝く作品ができました

おいしい笑顔があふれるひととき

添田駅前市場マルシェ

4月27日、BRTを活かしたにぎわいづくり実行委員会主催の「添田駅前市場マルシェ」が開かれました。町の食材を使ったお弁当や惣菜、手作りパンに焼



↑天気にも恵まれたマルシェ。早々に売り切れた商品も

き鳥、木工品やフラワーアレンジメントなど11店舗が添田駅舎内外に大集合。ワークショップコーナーもあり、子どもから大人まで多くの人でにぎわいました。

手で足で泥を感じて、お米の大切さを学ぶ

添田小学校田植え体験

5月14日、添田小学校4年生63人が、田植え体験を行いました。4月に苗床に種をまき自分たちで育てた苗を手に田んぼに入った児童たち。田んぼの冷たい



↑最初は戸惑っていた児童もすぐに慣れ、素早く苗を植えます

泥に「気持ちいい」、「気持ち悪い」と感じ方は人それぞれでしたが、田植えを行いだすとその楽しさに夢中に。等間隔で植えられた苗は、9月に収穫される予定です。

ごみゼロでいつもきれいな彦山川へ

遠賀川一斉清掃

5月18日、歓遊舎ひこさん前の彦山川河川敷で、清掃ボランティアが行われました。5月11日から6月10日までの春の遠賀川一斉清掃期間に合わせて上流



↑ごみを拾う参加者。ごみはポリ袋で拾って持ち帰りましょう

の彦山川でも実施。地元の野田行政区や添田町婦人会、アカザを守る会、シニアパワーアップ塾、町職員など約50人が捨てられたごみや空き缶などを拾いました。

夜明け前から上中元寺に多くの釣り人が集合

上中元寺ヤマメ釣り・つかみ取り大会



↑中には5匹以上捕まえる児童も

↑大物賞を獲得した野上さん

4月27日、上中元寺公民館横の中元寺川を舞台にヤマメ釣り大会が開催されました。日の出前後の釣果が上がりやすい「朝まづめ」にスタートしたヤマメ釣りは65人が参加、10時からの小学生以下の児童が参加できるヤマメのつかみ取り大会には55人の児童が参加し、びしょ濡れになりながらヤマメを追いかけていました。早朝3時に福岡市の家を出発し、23センチのヤマメを釣り上げ小学生の部で大物賞を獲得した野上裕真さんは「楽しかった。今までで一番釣れました」と喜んでいました。

大切に受け継がれてきた地域の祭り

町内各地区で神幸祭



↑下津野高木神社で奉納された神楽。2日間にわたりさまざまな演目が奉納されました

4月の英彦山神宮神幸祭を皮切りに5月初旬、五穀豊穡などを願い、町内各地区で行われた神幸祭。5月3日、4日の津野神幸祭では、津野神楽保存会の皆さんによる神楽が奉納されました。上津野お旅所や下津野高木神社で伝統ある荘厳な舞が披露され、集まった人々を魅了していました。岩瀬地区では17日に二十数年ぶりの神幸祭が開催され、「わっしょい、わっしょい」と子どもたちが大きな声を出しながら色とりどりのパレンが飾られた山笠を引っ張りました。いつもは静かなふる里に太鼓や鐘の音、子どもたちの声が響き渡っていました。

今年も山の事故が起こりませぬように

第59回英彦山山開き登山安全祈願祭

5月25日、英彦山神宮奉幣殿で第59回英彦山山開き登山安全祈願祭が行われました。昨年に続き山頂祭は上宮修復工事中のため執り行われませんでした。雨が降る悪天候にもかかわらず、昨年より多い300人以上の観光客や登山客が集まり1年間の山の安全を祈願、祈願祭終了後には記念手ぬぐいが配られました。また田川警察署員により、登山時の服装や装備、登山計画、健康状態など7つの注意事項が記されたチラシも配られ、本格的な登山シーズンに入る前に啓発活動も行われました。



↑営業再開したホテル和と開業20周年を迎えるスロープカーがデザインされた手ぬぐい

↓岩瀬地区で二十数年ぶりに行われた神幸祭は、山笠の修繕から始まりました



↑白装束をまとった男衆が神輿を担ぎ2日間65キロの道のりを練り歩く須佐神社神幸祭